

本庄市文化団体連合会

ふたば

<広報紙第15号>
令和5年3月1日発行
本庄市文化団体連合会
本庄市東台5丁目2番33号
(本庄公民館内)
TEL 0495-24-7383
FAX 0495-23-1677



撮影 町田 時男

◇解説

こだま千本桜

こだま千本桜は、小山川の約三・五キロメートル両側に約千本植えられています。

平成十七年より、毎年開催されている「こだま千本桜まつり」には、大勢の花見客で賑わいをみせています。

令和三年から夜桜も楽しめるようにライトアップも始めました。

今から四十年前前、最初に桜の苗木を植えた場所は、高柳自治会内の現在ある千本桜橋付近と秋平橋の所でした。当時、児玉町にあった各種団体の協力もあり、ボランティアによる植栽が毎年続けられました。

また、下町にある「大久保ひろば」の片隅には、平成元年四月に桜の植栽を記念して、下町の有志により将来立派な桜並木になるよう記念碑も建てられています。

文 根岸 久

◇会長あいさつ

まだまだ多くの事業が中止となる中、私たちの本庄市文化団体連合会は、徐々に活動の輪を広げていくことができようになりました。

思えば三年間のコロナの状況はまるで悪夢のようでした。総会は書面となり、文化祭は中止となりました。バスを利用する管外研修も無理となり、何もできない状況が続いてしまいました。

そんな中、私が感心したことは、本庄市文化団体連合会に加盟している各団体は少しもぶれることなく、自分たちの活動に工夫をこらし、形こそ変えても活動を続けてきました。そして、活動できる準備と努力を惜しまなかった結果、今日に繋がったのです。

いつでも行ける準備と文化の灯を消してはいけなさと考える会員の想いがこうして形となって現れたことは誠に喜びにたえないものがあります。本庄市文化団体連合会は、合併後十八年を経過しました。ますます充実した会になるためには、多くの人に愛され、一緒に活動していただける仲間をもっと増やしていきたいと思えます。

皆様方には多くのご支援を御願いし、会長のあいさつとします。

会長 立花 勲

○第十四回文化祭

コロナにより中止になっていた文化祭が児玉文化会館（セルテイ）にて三年ぶりに開催されました。

展示の部は二日間開催され、一階の展示スペースでは、パッチワークが会場を明るく華やかにしてくれました。四季を感じる写真の展示はコロナで旅ができない中、写真が旅に出たような気分させてくれました。「堀保己一先生を講談で聞く会」は今回初めての展示でした。その他にも短歌、絵画、書道、古美術、虹の会、盆栽など、すばらしい作品がたくさん展示されました。



実演の部では、囲碁の和やかな中にも真剣な勝負が見られました。今回は茶道と将棋の実演がなく、とても残念でした。



舞台の部では、明るく楽しく華やかな民謡の花笠音頭で始まり、小学生も参加した八木節。ダンスはリズムミカルなルンバの発表。今回初めて参加した琵琶の演奏。最後は秩父屋台囃子の太鼓の響きで締めくくりました。今回はリハーサル無しでの舞台発表でしたが、日頃の練習の成果は発揮できたと思います。



これからも、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

松本 俊子

○研修会

令和四年十一月九日、三年ぶりに研修が行われました。コロナ禍のため、管内の研修となり、本庄早稲田の杜ミュージアムの見学になりました。

近場でありすぎてなかなか訪れるチャンスがない方もいました。個人で訪ねる場合と違い、スタツフからしっかりと説明を聞き、本庄の昔に思いを寄せました。

本庄市のゆるキャラ「はにぼん」の原型である盾持人物埴輪の細めた目とともに笑っている様には見えない表情には、奥深い意味があったことに驚きました。

縄文・弥生時代の土器等、本庄の地に人が住み始めた時代の古さにも興味が湧きました。



茂木 恵子

〈加盟団体紹介〉

◆本庄短歌会

本庄短歌会は戦後の昭和二十二年に発足し、七十年以上の間、本庄市の文化活動の一翼を担ってきた歴史ある文芸団体です。一時は百名以上の会員を擁したこともありましたが、少子高齢化などの時代の変遷により現在では小人数ではありますが、連綿としてその活動を続けています。

通常の勉強会は次の三つの会で毎月行われております。

- 本庄短歌会：毎月第四土曜日 午前九時三十分より
- みなづき短歌会：毎月第四水曜日 午前十時より
- つわぶき短歌会：毎月第二木曜日 午前十時より

いずれも場所は本庄公民館です。

作品発表の場として隔月に発行されている歌誌「不死鳥」は八〇六号を数え、このように継続している歌誌は県下でも稀です。

毎月の勉強会や歌誌の発行という定例の事業の他にも本庄市文化団体連合会事業への参加等、随時短歌の発展のための各種事業に参加協力をしていきます。

また、当会では随時会員を募集しています。短歌に興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

福井 謙次

◆麓原会

麓原会は、「会員・会友・個々の絵画美術の向上を目指し、加えて地域社会の芸術や文化の向上に寄与する」ことを目的として、昭和二十年（一九四五年）に古川弘・堀英治・山田鶴左久・金井邦松の四人の先生により創設された歴史ある絵画の会です。

現在、会員・会友五十五名で、昨年は三年ぶりに、秋の大イベント「公募七十二回麓原展」を十一月三日から六日まで本庄西小学校体育館にて開催することができました。会員・会友・一般応募入選者の作品を百二十四点展示し、千四百三十名の来場者に感銘を与え大盛況でした。

コロナ禍のため中止となっていた春季展・夏季展・月例の人物デッサン会・互評会も昨年は開催いたしました。一般の応募者の優秀な作品には、各種の賞が授与され、すので、次回の公募麓原展には、多くの方に自慢の絵を出品していただきたいと思っております。

今井 治美

◆児玉町社交ダンス愛好会

令和四年度もコロナ禍の中で一年間が終ろうとしています。私達のサークルも、各種事業が中断や縮小している中、自主練習として活動してきました。



吉田 豊彦

コロナ前のように各事業やイベントに参加できませんでしたが、昨年十月の本庄市文化団体連合会の文化祭だけには参加することができました。久しぶりの舞台発表に出演者は緊張しながらも無事演技が終ることができたので喜んでいました。

会員の高齢化が進む中、運動不足の解消、認知症の防止、健康な身体作りのために週一度の練習に励んでいます。毎週金曜日午後七時から九時までセルデイの大会議室で練習していますので、興味のある方は見学に来てください。

令和五年度はコロナも終息して以前のように文化活動ができるよう心から願っています。

◆本庄市書道人連盟

「文字」は、初めは意思伝達に使命でしたが、次第に美的に表現したいという心が芽生えた。

これが要因となって、文字文化は「書」という芸術にまで昇華するに至った。漢字が仏教とともに中国大陸から我が国に渡来し、日本にあった文化と融合して洗練され、文字表記に創意工夫を重ねる独自の仮名を生み出しました。昨年、本庄市書道人連盟は五十回記念展を開催。コロナ禍で三年ぶりでしたが、力作が出品され、先達の諸先生の遺墨も展覧。見応えのある書道展であった。

半世紀に亘り活動できたのは会員の研鑽努力の賜物です。発足当時から会員も活躍していますが、高齢化は否めず若い方々の入会を心待ちにしております。



谷矢 淳陽

◆こだま民謡連合会

こだま民謡連合会は、流派の違いはありますが、間瀬会、塗民謡会、佳三会の三会派で構成されています。

創立四十三周年を迎え、年齢層は高く、会員数は減少していますが、「ポケ防止」をモットーに、はつらつと稽古に励んでいます。

「コロナ禍に打ち勝つ」その意気込みが感染を防ぎ、稽古も休むことなく続けた結果、文化祭の参加に繋がったのかなあ（笑）と思っています。今回の文化祭は、コロナ禍のため、参加団体が少なく、わずか二時間の舞台発表でした。

オープニングを勤めた私達は「花笠音頭」で幕を開け、大勢の観客から一斉に拍手をいただきました。その瞬間、はげしく感動して気持ちが高まりました。市川さんの絶妙な司会が会場を盛り上げ、会場内がお手拍子でいっぱいになり、賑やかに演奏できました。

いつの日かまた文化祭が盛大に開催されることを願いつつ、最後に本庄市文化団体連合会の益々の発展と皆様のご健康とご健勝をご祈念申し上げます。

そして、今回の文化祭では、大勢の方にご声援いただき、誠にありがとうございました。

和久井 節子

◆風洞八木節保存会

風洞八木節は郷土芸能の娯楽として引き継がれて来ましたが、長い間、途絶えていました。

しかし、諸先輩の熱い情熱とたゆまぬ努力で昭和六十三年に四十三周年振りに復活しました。

私達の活動は、施設めぐりや敬老会、小学校のふれあい支援など地域の皆様との親睦を図り、生きがいを見出し、子ども達と一緒に明るく楽しく各種の発表会に積極的に参加しています。

ご興味のある方は、いつでも入会をお待ちしております。
◎活動場所：風洞自治会館
◎活動時間：毎月第一・第三土曜日 午後七時三十分から九時まで



根岸 国重



子安 幻水

◆錦心流琵琶全国一水会
錦心流琵琶全国一水会は全国に三十以上の支部をもち、様々な場所で琵琶楽を広める活動をしています。
本庄児玉エリアでも芸術祭のほかに琵琶体験ワークショップや神社・寺院での献奏、室内演奏会などを行っています。
薩摩琵琶の音色を伴って語り継がれる平家物語など民族の叙事詩を、より多くの人に聞いていただきたいと思っています。
今回の文化祭では、お陰様で演奏の機会をいただいた後に、「琵琶曲を聴いてよかった」とのお声を多くいただき、とても励みになっていきます。今後ともよろしく願い申し上げます。



高橋 和美

◆塙保己一先生を講談で聴く会
この会が発足したのは四年前です。講談を通して、郷土の偉人「塙保己一先生」の功績を大勢の方々を知って頂くことが目的で年に一度講談会を開催しています。普段、触れる機会がない「講談」ですが、今では多くの人に楽しんで頂いています。プロの講談師を招き、講談会を開催していますが、真打ともなると話術も巧みで迫力さえ感じます。今年小学生三人がプロに交じって高座に上りました。まるつきりの素人ながら、宝井琴鶴さんのリモートでの指導で見事な講談を披露し会場からは大きな拍手がわきました。今年から本庄市文化団体連合会の仲間に入れて頂き、文化を楽しむ皆様の活動に感心しております。

本庄市文化団体連合会加盟団体一覧

	団体名		団体名		団体名
1	本庄短歌会	10	西川流清秋会(日舞)	18	HPC 写真クラブ
2	麓原会(絵画)	11	寿流鶴總會(日舞)	19	児玉カメラクラブ
3	本庄市書道人連盟	12	児玉町社交ダンス愛好会	20	本庄市将棋連盟
4	秋山八木節保存会	13	ロコマイカイ児玉フラ	21	日本棋院埼玉本庄支部
5	風洞八木節保存会	14	児玉盆栽会	22	はぎれっ子(パッチワーク)
6	こだま和太鼓会	15	本庄市茶道連合会	23	本庄虹の演劇鑑賞会
7	児玉だんべえ愛好会	16	児玉茶道会	24	錦心流琵琶全国一水会
8	こだま民謡連合会	17	本庄古美術愛好会	25	塙保己一先生を講談で聴く会
9	秀寿恵会(民謡)				



※本庄市文化団体連合会(略称:文団連)は本庄市で活動する25団体で構成された連合会です。ご興味のある団体がありましたら、本庄市文化団体連合会事務局(0495-24-7383)までお問い合わせください。

◇編集後記

昨年はコロナの影響で広報紙をやむなく休刊しました。コロナ禍で日常の生活や各団体の活動と交流が委縮し、何となく消極的になってしまふことが心配でした。

コロナは徐々に収束しつつありますが、感染に対する警戒をしながら、やみくもに恐れず正しい情報を取り込み、焦らずにコロナと共存して行動するしかないと思います。

このたび、新しく二団体が加盟し、本庄市文化団体連合会は二十五団体になりました。これからの各団体の活動に期待し、より充実した内容でお届けしたいと思います。今後とも、広報紙「ぶんだんれん」をご愛読ください。

◇編集委員

委員長 高野 克己
副委員長 町田 時男
委員 森 和子 市川 隆雄
谷矢 淳陽 杉山 徹雄
根岸 國重 関根 加代子

発行所

本庄市文化団体連合会
(本庄市本庄公民館内)
電話 二四一七三八三